

吉田清隆 議員



● 勝山市の観光PRについて ● 全国障害者スポーツ大会等の支援について

そのほかの質問
・田舎暮らし体験農家について
・家事代行サービスについて

一般質問

問 勝山市の観光地PRは、インターネットやパンフレットで紹介しているが、市内の工事区間において、勝山市内の観光名所の写真を貼った工事看板等があった。勝山市の観光地の写真を貼った工事看板等の作成に補助金を出せないか。
また、勝山温泉センター「水芭蕉」がリニューアルに伴い、「仮称」恐竜の湯」に名称変更となるようだが、本来「水芭蕉」とした名称の由来は何だったのか。変更する理由について伺う。

答 工事看板での観光PRの取り組みについては、工事成績評定の加算項目として取り扱っている。また、一定規模以上の工事の場合、現場環境改善費として工事費に計上することが可能となっている。
「水芭蕉」という名称は、一般公募に応募頂いた74点の作品の中から採用されたもの。「恐竜のまち勝山」の温泉施設として、年間を通じて観光客を主なターゲットとして誘客を図りたい。名称変更の是非も含めて、検討する。

問 6月の恐竜クロカンマラソンで視覚障害者の方と20kmの部を走った。私は「伴走」と書いたゼッケンをつけていた。給水所で給水係の方々がドリンクを渡してくれたが、視覚障害者の方はその方が見えなかったので、うまく受け取れなかった。「伴走」のゼッケンの意味を幅広く知って頂きたいと実感した。
勝山市において来年の障害者スポーツ大会の対応についてどのような状況か。また、公共施設を利用される障害者の方々の対応はどのような状況か伺う。

プレ大会・本大会とも十分な準備に努め、当日の運営職員やボランティアの業務必携には、障害をお持ちの方への対応を記したページも掲載し種々の障害に対応できるように努める。
「勝山市における障害を理由とする差別の解消の推進に関する職員対応要領」を作成し、研修会を実施した。今後、具体的な合理的配慮等の事例を積み上げて職員間で情報を共有し、障害をお持ちの方への対応に努めていく。

下道恵子 議員



● 地域包括ケアシステムの実現に向けた「情報共有システム」の活用について ● 結婚支援事業について

そのほかの質問
・宅配ボックス設置への補助について
・市内の夜のタクシー運行対策について
・新生児の聴覚検査について
・手話言語条例の制定について

一般質問

問 現在、医師やケアマネジャーが患者さんを訪問した時には、患者さんの心拍数や血圧、体温などは「訪問ノート」に書き込みしている。「情報共有システム」とは、登録してあるスマートフォンに患者さんの状況を書き込むことで、リアルタイムで情報を知らせることができるとのこと。これを市で契約し、病院や介護施設とリンクさせて情報共有していくようにできないか伺う。

答 情報共有システムは、患者を支える医療・介護の関係者間で情報を共有するものであり、個人情報保護の問題もあり、勝山市がシステムを管理することは困難と考える。市では、地域包括支援センターに医療コーディネーターを配置し、地域の医療・介護関係者の情報共有の支援や多職種連携研修会の開催など、市内の医療・介護に関わる専門職が連携しやすい体制づくりを進めている。

問 ①市の結婚支援事業での平成28年度の見合い件数と成立件数、また平成29年度になつてから9月現在までの状況を伺う。

②「データ」活用とは、最初申し込んだ人が上手いかなくても、その後、コンピュータがデータに登録されている人々から好みに似た人を何人か探し出してくれるという手法。これで1年に228組も成立させた県がある。市も取り入れてみないかどうか伺う。

①結婚相談員さんによる平成28年度結婚相談件数は160件、お見合い件数は25件、婚姻成立件数は2組だった。平成29年度の9月までの相談件数は95件で、お見合い件数は16件、婚姻成立件数は2組となっている。②過去に福井県において取り組もうとした経緯があったが、個人情報の取り扱い等の諸事情のため、運用ができなかったと聞いている。
県では、ふくい婚活力フェのメールマガジンに登録者に送信し、婚活情報を発信している。市が開催している「男女の交流事業」の申込者には、「ふくい婚活力フェを見たい」といった方も多数いることから、このサイトのPR効果は有効と感じている。